

# おきたま米づくり情報 No.2

平成30年4月6日  
オールやまがた米づくり日本一運動  
置賜地域実践本部

## 平成30年産の米づくりスタート！

天候に合わせたきめ細やかな温度・水管理を行い、「健苗育成」に努めましょう

### ◎播種 ～良い苗を適期に植えられるよう計画的に～

- 田植えの計画に合わせて播種日を決めましょう。苗の老化は、活着不良や初期生育が遅れる要因となります！
- 10a 当たりに必要な苗箱数は、稚苗で 25 箱、中苗で 30 箱が目安です。
- 移植適期は **5月15～20日**です。

#### ☆作業時期の目安【5月20日田植えの場合】

田植え日から逆算して  
計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬け日	催芽日	播種日	育苗期間	田植日
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	<b>4月25日</b>	20～25日	<b>5月20日</b>
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	<b>4月15日</b>	30～35日	

### ◎育苗初期の温度・水管理

- ハウス内および育苗箱付近には必ず温度計を設置し、適温となるよう遮光資材やハウスの開閉で温度調節を行いましょう。
- 被覆資材は、保温性をもつもの、遮光により育苗箱内の温度を低く保つもの、両方の特性をもつもの等、それぞれ特性が異なります。太陽シート等資材の特性を良く理解して使用することが大切です。

#### 【低温対策】

被覆資材で保温対策をとる。遮光性の高い資材は保温効果が低いので注意。

苗床も  
温度を確認！



#### 【高温対策】

晴天時は高温障害が発生しやすい。40℃を超すと30分でヤケることも。早めにハウスを開放する、遮光資材を使う等の対策を取る。

#### 【育苗期間の温度管理】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめこまやかな管理を行う。
緑化期 (出芽後2～3日)	25℃	15℃	○外気温が25℃以上の日は要注意！ 早めにハウスを開ける。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	○低温時には保温に努める。 ○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。

- かん水は午前中に1回が基本です。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では1.5葉期からハウスを開放し、入水します(床土の高さ)。2葉期以降は常時湛水し、箱上1cm程度の水深とします。苗が伸びやすくなるため、ハウスの気温はやや低めに管理しましょう。

## ◎ 育苗期間中の病害対策

- 出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。カビが発生したり、苗の生育異常がみられたりした場合には早めにご相談ください。

### 【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状	発生条件	発生抑制のポイント
フザリウム	白色～淡紅色のカビ	緑化期の低温、湿度の変動が大きい時	○低温をさげ、適切な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない。 出芽後の芽、根の枯死、ムレ苗		
リゾプス	種子、芽の周辺に白いカビ、根の褐変、葉の黄化	出芽時の高温多湿	○33℃以上の高温、多湿にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化、枯死、坪枯れ	高温、多湿	○高温、多湿にしない ○発生した場合は苗を処分

## ◎ 土づくり肥料を積極投入

- 気象変動に負けないはイネづくりは土づくりが重要です。もう一度基本に立ち返り、積極的に「土づくり」に取り組みましょう。
- 特に、ケイ酸資材は①根の活力維持、②登熟能力の向上、③いもち病抵抗性向上の効果が期待できます。積極的に施用しましょう。**【施用のめやす】ケイカル 120 kg/10a**
- 作土が浅くなっていませんか？土壌からの養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のために、**耕土深 15cm** を目標に耕起を行いましょう。

## ◎ 品種に応じた基肥量の目安

- 品種に応じた基肥量（窒素量）は、下表を目安に、良食味米の生産に努めましょう。

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 (kg/10a)	5～6	3～4	4～5	3～4	4～5	5～6

## ◎ 堆肥の過剰施用は食味にマイナス

- 堆肥は、家畜の種類や原料により成分が異なるので、特徴を把握して施用しましょう。

# STOP 農作業事故！ ～春季農作業事故防止強化期間中～

- 春作業はトラクター等の機械作業が多くなるので、作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故ゼロを達成しましょう。